半島民衆の愛国運動（六）[[1]](#footnote-1)

　香山光郎

此の生活新は一、生活の[、]二、生活の合理 [、]三、生活の臨戦化によるものである。生活の皇民と云ふのは、風中に非日的なものを除去して、日本的なものを代入醇することである。へば婚葬禮儀の[、]家族親族觀念の日本 [、]崇祖天皇心の生活の新建設である。此の、禮儀に相反する支那崇残滓は斷除去すべきである。

生活の合理と云ふのは科學、、戦時を意味するものである。科學は衣食住の改良であり、經は勞力と資の浪費をする事であり、戦時制と云ふのは物資節約、賣惜、買溜、闇取[の]絶と不緊勞働を必生産増加方面に轉することである。

科學の心となるものは保であるが、養、衛生に關して我島胞の生活には新すべき所が多々にあるのである、保は決して人の壽夭苦樂題ではなく國家の人的資題である。に妊産と兒、幼兒保護施設が殆ど無いと云ひべき今の朝鮮農村は國の將に影響するところが甚だ多い。辛鹽の過用、脂白の足、調理法の不合理のき榮養題は接生能に影響が大である。専門家の話によれば半島胞の勞働が支那人より劣るのは榮養關係であつて体質關ではなく支那苦力の体は彼らが日に摂取する豚脂と豆腐から來るものと云つてゐる。

生活の合理と云ふのは物資と人の浪費を杜すると云ふでそこから節約された資と力を有用生産方面に轉せよと云ふのである。假令半島一千三百萬女の一ヶ年に於ける白衣ときぬたに要するを十とすれば一億三千萬日一日に三十銭價の生産に轉向すれば三千九百萬圓價の質は生産されることになる。もしも部共同事共同購入、共同販賣等が實現されゝばそれにより節される物資と勞は實に天文學的數字にすることであらう。しかるに其の實現をざる今日日全体にては勞が不足してゐるのである。（終り）

1. 1941年9月28日付『東亞新聞』に掲載された。この（六）以外は資料が残ってない。李光洙は『毎日新報』に同年9月4日から7日にわたり全4回で同じタイトルの「半島民衆의愛國運動」を連載しているが、その最終回とこの文章とは内容が違っている。 [↑](#footnote-ref-1)